

**ESET PROTECT on-prem
for Linux V11.1
データベース移行手順書**

第1版

作成：2024年7月

Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

概要

- 本資料はLinux版のオンプレミス型セキュリティ管理ツールのデータベースの移行手順をまとめた資料です。
本手順では データベース移行に併せて、オンプレミス型セキュリティ管理ツールのバージョンアップも実施します。
以下に記載の<環境構成>を前提とした手順のフローや注意点を記載しております。
※オンプレミス型セキュリティ管理ツールV9.1以降であれば同手順で移行可能です。
- 本資料は作成時のソフトウェアおよびハードウェアの情報に基づき作成されています。
ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに記載されている機能及び名称が異なる場合が
また本資料の内容は、予告なく変更することがあります。
- 本製品の一部またはすべてを無断で複製、改変することを禁止します。

<環境構成>

移行前		移行後	
OS	CentOS7 (64bit)	OS	Rocky Linux9 (64bit)
EP on-prem	EP on-prem 11.0 ※	EP on-prem	EP on-prem 11.1
サーバ	MySQL8.0	サーバ	MySQL8.0
	ODBC8.0.17ドライバ		mariadb-connector-ODBC 3.1.12ドライバ
Webコンソール	Apache/Tomcat9	Webコンソール	Apache/Tomcat9

※オンプレミス型セキュリティ管理ツール V9.1以降であれば移行可能です。

<前提条件>

本資料は以下の前提条件をもとに手順を記載しております。

事前に前提条件で記載した内容を準備いただくようお願いいたします。

※本手順書は2024年7月時点の情報で作成しております。手順内のリンクやコマンドが利用できない場合はサポート対象の新しいバージョンに読み替えて実施いただくようお願いいたします。

※本手順書は/tmpで実施した手順としております

- ・移行後の環境であるRocky Linux9がインストール済みであること
- ・移行後の環境であるRocky Linux9のISOイメージはMinimalイメージを利用していること
- ・移行前後のネットワーク環境などは同一であること
- ・移行後の環境は以下のESET PROTECT on-premの動作環境、前提条件を満たしていること
 - 動作環境 <https://canon.jp/business/solution/it-sec/lineup/eset/feature/onpremises-security>
 - 前提条件 https://help.eset.com/protect_install/11.1/ja-JP/prerequisites_server_linux.html
- ・移行後の環境はインターネットに接続可能な状態であること
- ・Linux版EP on-prem のコンポーネントプログラムを任意の場所に保存してあること ※1
- ・Tomcat9のインストーラーを任意の場所に保存してあること ※2
- ・unzip、xauthコマンドが使用できること ※3

※1. コンポーネントプログラムは以下URLのユーザズサイトよりダウンロードすることが可能です。

Linux版をダウンロードしてください。

<https://eset-info.canon-its.jp/business/download/ep-entry-o/new-version.html#mng>

※2 Tomcatは以下のURLよりダウンロードしてください。

<https://d1cdn.apache.org/tomcat/tomcat-9/>

※3. コマンド `[yum install -y unzip]`、`[yum install -y xauth]`を実行してください。

<インストール手順>

インストール手順の概要は以下の通りになります。インストールを行う際は、1～9の順で実施をお願いいたします。

詳細につきましては、各シートをご参照下さい。

1. 事前準備
2. MySQLのセットアップ
3. MySQL管理者アカウントの設定
4. MySQL ODBCドライバのセットアップ
5. DBの移行
6. EP on-premサーバのインストール
7. Tomcatのインストール
8. 証明書の変更
9. EMIエージェントのインストール

資料名	シート名	バージョン	備考
ESET PROTECT on-prem for Linux V11.1 データベース移行手順書	1.事前準備	1.0	
本シートの手順は「移行前の環境(CentOS7)」で実施ください。			
No1 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
1-1-1.DBのバックアップ(1) EP on-premのサービスを停止する	以下のコマンドを実行してください		
<pre>[root@localhost tmp]# systemctl stop eraserver [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# systemctl status eraserver systemctl status eraserver ● eraserver.service - ESET PROTECT Server Loaded: loaded (/etc/systemd/system/eraserver.service; enabled; vendor preset: disabled) Active: inactive (dead) since 火 2024-06-18 11:36:13 JST; 6s ago Main PID: 18024 (code=exited, status=0/SUCCESS) 1月 09 16:03:45 localhost.localdomain systemd[1]: Stopped ESET PROTECT Server. 1月 09 16:03:45 localhost.localdomain systemd[1]: Starting ESET PROTECT Ser... ~~~~~ 以下、省略</pre>	【コマンド】 # systemctl stop eraserver 【コマンド】 # systemctl status eraserver	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
No1 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
1-1-2.DBのバックアップ(2) DBをバックアップする	以下のコマンドを実行してください		
<pre>[root@localhost tmp]# mysqldump --disable-keys --extended-insert --routines -u root -p era_db > /tmp/mysqldmp Enter password: [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt mysqldmp -rw-r--r-- 1 root root 12282921 6月 18 11:39 mysqldmp</pre>	【コマンド】 # mysqldump --disable-keys --extended-insert --routines -u root -p era_db > /tmp/mysqldmp Enter password: 「Enter password:」にてDBのパスワードを入力する 【コマンド】 # ls -alt mysqldmp 【確認】 mysqldmpが作成されていることを確認する	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
mysqldmpは「移行後の環境(Rocky Linux9)」の「/tmp」に移動させてください			
No2 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
1-2-1.DB移行前の事前準備(1) 移行前後のネットワーク環境を同一にする	以下のコマンドを実行してください		
<pre>[root@localhost tmp]# ifconfig ensXX: flags=4163<UP, BROADCAST, RUNNING, MULTICAST> mtu 1500 inet 192.168.XX.XX netmask 255.255.255.0 broadcast 192.XX.XX.XX ~~~~~ 以下、省略</pre>	【コマンド】 #ifconfig 【確認】 ネットワーク構成をメモしておく	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
1-2-1 ネットワーク構成 メモ欄			
移行前のネットワーク構成の情報を参考に移行後のネットワーク環境を同一にするように設定します ※移行前の環境を停止してから、移行後の環境の設定を実施ください。(手順1-3)			
		<input type="checkbox"/>	
No2 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
1-2-2.DB移行前の事前準備(1) 移行前後のホスト名を同一にする	以下のコマンドを実行してください		
<pre>[root@localhost tmp]# cat /etc/hostname XXXXXX.XXXXX</pre>	【コマンド】 #cat /etc/hostname 【確認】 ホスト名をメモしておく	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
1-2-2 ホスト名 メモ欄			
移行前のホスト名の情報を参考に移行後のホスト名を同一にするように設定してください ※移行前の環境を停止してから、移行後の環境の設定を実施ください。(手順1-3)			
		<input type="checkbox"/>	
No2 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
1-2-3.DB移行前の事前準備(1) 移行前後のNameServerを同一にする	以下のコマンドを実行してください		
<pre>[root@localhost tmp]# cat /etc/resolv.conf ~~~~~ 以下、省略</pre>	【コマンド】 #cat /etc/resolv.conf 【確認】 NameServerをメモしておく	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
1-2-3 NameServer メモ欄			
移行前のNameServerの情報を参考にNameServerを同一にするように設定してください ※移行前の環境を停止してから、移行後の環境の設定を実施ください。(手順1-3)			
		<input type="checkbox"/>	

No3 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
1-3.サーバの停止	以下のコマンドを実行してください	
移行前のサーバの停止させる	【コマンド】 shutdown -h now	<input type="checkbox"/>
[root@localhost tmp]# shutdown -h now	<div data-bbox="912 248 1364 333" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>手順1-1から1-2が正常におこなわれていることを確認のうえ、実施ください。</p> </div>	<input type="checkbox"/>
<div data-bbox="252 369 1166 427" style="border: 1px solid gray; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>以上で、移行前の環境での操作は終了となります。</p> </div>		

■ 商科名	■ シード名	バージョン	備考
ESET PROTECT on-prem for Linux V11.1 データベース移行手順書	2.MySQLのセットアップ	1.0	
本シート以降の手順は「移行後の環境(Rocky Linux9)」で実施ください。			
No1 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
2-1-1.SELinuxの無効化および設定ファイルのバックアップ (1) SELinuxの状態確認と設定ファイルのバックアップを取得する <pre>[root@localhost tmp]# getenforce Enforcing [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# cp -p /etc/selinux/config /etc/selinux/config.bk [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt /etc/selinux/ grep config -rw-r--r--. 1 root root 543 1月 28 00:17 config -rw-r--r--. 1 root root 543 1月 28 00:17 config.bk [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # getenforce 【確認】 現在の状態を確認する。Disabledの場合は以下、2-1-3までの手順は必要なし 【コマンド】 # cp -p /etc/selinux/config /etc/selinux/config.bk 【コマンド】 # ls -alt /etc/selinux/ grep config 【確認】 バックアップファイルが作成されていること	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
No1 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
2-1-2.SELinuxの無効化および設定ファイルのバックアップ (2) SELinuxの自動起動を無効化する <pre>[root@localhost tmp]# vi /etc/selinux/config (変更前) # enforcing - SELinux security policy is enforced. # permissive - SELinux prints warnings instead of enforcing. # disabled - No SELinux policy is loaded. SELINUX=enforcing ~~~~~ 以下、省略 ~~~~~ (変更後) # enforcing - SELinux security policy is enforced. # permissive - SELinux prints warnings instead of enforcing. # disabled - No SELinux policy is loaded. SELINUX=disabled ~~~~~ 以下、省略 ~~~~~ [root@localhost tmp]# diff /etc/selinux/config /etc/selinux/config.bk 7c7 < SELINUX=disabled ~ > SELINUX=enforcing [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # vi /etc/selinux/config 【変更】 「enforcing」を「disabled」に変更する 【コマンド】 # diff /etc/selinux/config /etc/selinux/config.bk 【確認】 変更箇所がdisabledに編集されていること < SELINUX=disabled > SELINUX=enforcing	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	編集モード
No1 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
2-1-3.SELinuxの無効化および設定ファイルのバックアップ (3) OS再起動後、SELinuxが無効化されていることを確認する <pre>[root@localhost tmp]# shutdown -r now [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# getenforce Disabled</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # shutdown -r now 【コマンド】 # getenforce 【確認】 再起動後に設定が適用されたか確認する	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
No2 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
2-2.MySQLサーバ用リポジトリのダウンロード 指定したURLからRPMファイルを取得する。(本手順書では/tmpを利用する) <pre>[root@localhost tmp]# yum -y localinstall https://dev.mysql.com/get/mysql80-community-release-el9-1.noarch.rpm ~~~~~ 途中省略 ~~~~~ インストール中 : mysql80-community-release-el9-1.noarch 1/1 検証中 : mysql80-community-release-el9-1.noarch 1/1 インストール済み: mysql80-community-release-el9-1.noarch 完了しました! [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # yum -y localinstall https://dev.mysql.com/get/mysql80-community-release-el9-1.noarch.rpm 【確認】 ERRが出力されていないこと ※インターネット接続できない環境の場合はERRになります。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	

No	#コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
No3	#コンソールイメージ 2-3.MySQLサーバのインストール 1-3でインストールしたリポジトリを使用してMySQLサーバをインストールする。 [root@localhost tmp]# yum install -y mysql-community-server --nogpgcheck ~~~~~途中省略~~~~~ perl-overloading-0.02-481.el9.noarch perl-parent-1:0.238-460.el9.noarch perl-podlators-1:4.14-460.el9.noarch perl-sub-1.03-481.el9.noarch perl-vars-1.05-481.el9.noarch 完了しました! [root@localhost tmp]# mysql --version mysql Ver 8.0.37 for Linux on x86_64 (MySQL Community Server - GPL) [root@localhost tmp]#	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】# yum install -y mysql-community-server --nogpgcheck 【確認】インストールが完了していること 【コマンド】# mysql --version 【確認】該当のバージョンであること	二 二 二
No4	#コンソールイメージ 2-4.MySQLサーバ起動/稼働確認 MySQLサーバインストール直後はデーモンが起動していないため、デーモンのステータスは確認せず起動から実施する。 [root@localhost tmp]# systemctl start mysqld [root@localhost tmp]# systemctl status mysqld ● mysqld.service - MySQL Server Loaded: loaded (/usr/lib/systemd/system/mysqld.service; enabled; preset: d) Active: active (running) since Tue 2024-06-18 13:43:28 JST; 20s ago Docs: man:mysqld(8) http://dev.mysql.com/doc/refman/en/using-systemd.html Process: 3565 ExecStartPre=/usr/bin/mysqld_pre_systemd (code=exited, status> Main PID: 3634 (mysqld) Status: "Server is operational" Tasks: 38 (limit: 10900) Memory: 482.1M CPU: 5.424s CGroup: /system.slice/mysqld.service mq3634 /usr/sbin/mysqld 6月 18 13:43:14 localhost.localdomain systemd[1]: Starting MySQL Server... 6月 18 13:43:28 localhost.localdomain systemd[1]: Started MySQL Server. [root@localhost tmp]#	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】# systemctl start mysqld 【コマンド】# systemctl status mysqld 【確認】MySQLサーバが起動(active)していること	二 一 二
No5	#コンソールイメージ 2-5.MySQLサーバの自動起動設定 自動起動設定がされていない場合は、自動起動設定を実施する。 [root@localhost tmp]# systemctl enable mysqld [root@localhost tmp]# systemctl status mysqld ● mysqld.service - MySQL Server Loaded: loaded (/usr/lib/systemd/system/mysqld.service; enabled; preset: d) Active: active (running) since Tue 2024-06-18 13:43:28 JST; 1min 24s ago Docs: man:mysqld(8) http://dev.mysql.com/doc/refman/en/using-systemd.html Main PID: 3634 (mysqld) Status: "Server is operational" Tasks: 37 (limit: 10900) Memory: 482.3M CPU: 5.635s CGroup: /system.slice/mysqld.service mq3634 /usr/sbin/mysqld 6月 18 13:43:14 localhost.localdomain systemd[1]: Starting MySQL Server... 6月 18 13:43:28 localhost.localdomain systemd[1]: Started MySQL Server. [root@localhost tmp]#	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】# systemctl enable mysqld 【コマンド】# systemctl status mysqld 【確認】自動起動(enabled)になっていることを確認	二 二
No6	#コンソールイメージ 2-6.データベースの設定変更(1) 設定ファイルのバックアップを取得する [root@localhost tmp]# cp -p /etc/my.cnf /etc/my.cnf.bk [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt /etc/ grep my.cnf -rw-r--r-- 1 root root 1243 6月 18 13:44 my.cnf -rw-r--r-- 1 root root 1243 6月 18 13:44 my.cnf.bk drwxr-xr-x 2 root root 6 6月 18 13:44 my.cn.f [root@localhost tmp]#	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】# cp -p /etc/my.cnf /etc/my.cnf.bk 【コマンド】# ls -alt /etc/ grep my.cnf 【確認】バックアップファイルが作成されていること	二 二
No7	#コンソールイメージ 2-7.データベースの設定変更(2) 設定ファイルの内容を変更する [root@localhost tmp]# vi /etc/my.cnf ~~~~~途中省略~~~~~ # default-authentication-plugin=mysql_native_password datadir=/var/lib/mysql socket=/var/lib/mysql/mysql.sock log-error=/var/log/mysqld.log pid-files=/var/run/mysqld/mysqld.pid max_allowed_packet=33M innodb_log_file_size=100M innodb_log_files_in_group=2 character-set-server=utf8 default_password_lifetime=0 log_bin_trust_function_creators=1 [root@localhost tmp]# diff /etc/my.cnf /etc/my.cnf.bk 32,37d31 < max_allowed_packet=33M < innodb_log_file_size=100M < innodb_log_files_in_group=2 < character-set-server=utf8 < default_password_lifetime=0 < log_bin_trust_function_creators=1 [root@localhost tmp]#	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】# vi /etc/my.cnf 以下の値を追加する max_allowed_packet=33M innodb_log_file_size=100M innodb_log_files_in_group=2 character-set-server=utf8 default_password_lifetime=0 log_bin_trust_function_creators=1 【コマンド】# diff /etc/my.cnf /etc/my.cnf.bk ※MySQL8.0からペイナリログの取得がデフォルトでONになっているため、ストレージの負荷が懸念される場合は以下の値を追加する。 disable-log-bin=0 【確認】追加した内容が正しいこと	二 二 二
No8	#コンソールイメージ 2-8.MySQLサーバを再起動/稼働確認 変更した設定ファイルを反映させるために、MySQLを再起動し、正常に稼働することを確認する。 [root@localhost tmp]# systemctl restart mysqld [root@localhost tmp]# systemctl status mysqld ● mysqld.service - MySQL Server Loaded: loaded (/usr/lib/systemd/system/mysqld.service; enabled; preset: d) Active: active (running) since Tue 2024-06-18 13:48:24 JST; 20s ago Docs: man:mysqld(8) http://dev.mysql.com/doc/refman/en/using-systemd.html Process: 3713 ExecStartPre=/usr/bin/mysqld_pre_systemd (code=exited, status> Main PID: 3740 (mysqld) Status: "Server is operational" Tasks: 38 (limit: 10900) Memory: 366.5M CPU: 1.403s CGroup: /system.slice/mysqld.service mq3740 /usr/sbin/mysqld 6月 18 13:48:22 localhost.localdomain systemd[1]: Starting MySQL Server... 6月 18 13:48:24 localhost.localdomain systemd[1]: Started MySQL Server.	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】# systemctl restart mysqld 【コマンド】# systemctl status mysqld 【確認】MySQLサーバが起動(active)していること	二 二

資料名	シート名	バージョン	備考
ESET PROTECT on-prem for Linux V11.1 データベース移行手順書	3.MySQL管理者アカウントの設定	1.0	
[移行後の環境(Rocky Linux9)]での実施手順			
No1 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
3-1.MySQL管理者アカウントの初期パスワード確認 MySQL8.0では管理者アカウントに初期パスワードが設定されているため確認する。 [root@localhost tmp]# grep "temporary password" /var/log/mysqld.log 2024-06-19T04:14:25.051402Z 6 [Note] [MY-010454] [Server] A temporary password is generated for root@localhost: AKH:5VDgi#aE (例) [root@localhost tmp]#	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # grep "temporary password" /var/log/mysqld.log 【確認】 「:」後のパスワードを確認する。 ※後述の手順で利用します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">3-1 パスワードメモ欄</div>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
No2 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
3-2.管理者アカウントのパスワード変更 2-1で確認した管理者アカウントの初期パスワードを変更する。 [root@localhost tmp]# mysql_secure_installation Securing the MySQL server deployment. Enter password for user root: The existing password for the user account root has expired. Please set a new password. New password: Re-enter new password: The 'validate_password' component is installed on the server. The subsequent steps will run with the existing configuration of the component. Using existing password for root. Estimated strength of the password: 100 Change the password for root ? ((Press y Y for Yes, any other key for No) : n ... skipping. By default, a MySQL installation has an anonymous user, allowing anyone to log into MySQL without having to have a user account created for them. This is intended only for testing, and to make the installation go a bit smoother. You should remove them before moving into a production environment. Remove anonymous users? (Press y Y for Yes, any other key for No) : y Success. Normally, root should only be allowed to connect from 'localhost'. This ensures that someone cannot guess at the root password from the network. Disallow root login remotely? (Press y Y for Yes, any other key for No) : y Success. By default, MySQL comes with a database named 'test' that anyone can access. This is also intended only for testing, and should be removed before moving into a production environment. Remove test database and access to it? (Press y Y for Yes, any other key for No) : y - Dropping test database... Success. - Removing privileges on test database... Success. Reloading the privilege tables will ensure that all changes made so far will take effect immediately. Reload privilege tables now? (Press y Y for Yes, any other key for No) : y Success. All done! [root@localhost tmp]#	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # mysql_secure_installation Enter password for user root:= 3-1で確認した初期パスワード New password:= 任意のパスワード ※後続の手順で利用します。 Re-enter new password:= New passwordと同様のパスワード ※MySQL8.0ではパスワードポリシーの初期値が「MEDIUM」のため、パスワードには以下の条件を満たす必要があります。 ・パスワード長 8文字以上 ・大文字小文字 1文字以上 ・数字 1文字以上 ・記号 1文字以上 ※MySQLの管理者パスワードに、以下の文字を利用すると、RPのインストールに失敗することを確認しております。 { } 上記文字を利用しないよう、ご注意ください。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">3-2 New password メモ欄</div>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
No3 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
3-3.MySQLに接続確認 2-2で変更したパスワードでMySQLにログインをする。 [root@localhost tmp]# mysql -u root --host 127.0.0.1 -p Enter password: Welcome to the MySQL monitor. Commands end with ; or \g. Your MySQL connection id is 13 Server version: 8.0.37 MySQL Community Server - GPL Copyright (c) 2000, 2024, Oracle and/or its affiliates. Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners. Type 'help;' or '\h;' for help. Type '\c;' to clear the current input statement. mysql> mysql> quit Bye [root@localhost tmp]#	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # mysql -u root --host 127.0.0.1 -p Enter password:= 3-2で設定したパスワード 【確認】 ログインできることを確認する。 【コマンド】 quit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

資料名	シート名	バージョン	備考		
ESET PROTECT on-prem for Linux V11.1 データベース移行手順書	4.MySQL ODBCドライバのセットアップ	1.0			
[移行後の環境(Rocky Linux9)]での実施手順					
No1 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック			
4-1.ODBCドライバのインストール yumコマンドでODBCドライバのインストールをする <pre>[root@localhost tmp]# yum -y install mariadb-connector-odbc-3.1.12-3.el9.x86_64</pre> 途中省略 <pre>検証中 : mariadb-connector-odbc-3.1.12-3.el9.x86_64 3/3</pre> インストール済み: <pre>mariadb-connector-c-3.2.6-1.el9_0.x86_64 mariadb-connector-odbc-3.1.12-3.el9.x86_64 unixODBC-2.3.9-4.el9.x86_64</pre> 完了しました! <pre>[root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# yum list installed grep odbc mariadb-connector-odbc.x86_64 3.1.12-3.el9 @appstream [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # yum -y install mariadb-connector-odbc-3.1.12-3.el9.x86_64 【確認】 ドライバがインストールされたこと 【コマンド】 # yum list installed grep odbc 【確認】 該当のバージョンであること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
No2 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック			
4-2.ODBCドライバの設定ファイルのバックアップ 設定ファイルのバックアップを取得する <pre>[root@localhost tmp]# cp -p /etc/odbcinst.ini /etc/odbcinst.ini.bk</pre> <pre>[root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt /etc/ grep odbcinst.ini -rw-r--r-- 1 root root 1896 5月 16 2022 odbcinst.ini -rw-r--r-- 1 root root 1896 5月 16 2022 odbcinst.ini.bk</pre> <pre>[root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # cp -p /etc/odbcinst.ini /etc/odbcinst.ini.bk 【コマンド】 # ls -alt /etc/ grep odbcinst.ini 【確認】 バックアップファイルが作成されていること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
No3 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック			
4-3.ODBCドライバの設定ファイル変更 ODBCドライバの設定ファイルをドライバが利用可能な状態に修正する <pre>[root@localhost tmp]# vi /etc/odbcinst.ini</pre> (変更前) <pre>[MySQL] Description = ODBC for MySQL 8 # mysql-connector-odbc package provides shared libraries with "w" or "a" suffix. # 'w' stands for 'wide' or 'unicode' character set, 'a' stands for 'ANSI' # Symlinks used in the configuration below lead to the 'w' variant by default Driver = /usr/lib/libmyodbc8.so Driver64 = /usr/lib64/libmyodbc8.so FileUsage = 1</pre> (変更後) <pre>[MySQL] Description = ODBC for MySQL 8 # mysql-connector-odbc package provides shared libraries with "w" or "a" suffix. # 'w' stands for 'wide' or 'unicode' character set, 'a' stands for 'ANSI' # Symlinks used in the configuration below lead to the 'w' variant by default Driver = /usr/lib64/libmaodbc.so (モジュール名変更) #Driver64 = /usr/lib64/libmyodbc8.so (モジュール名変更) Threading = 0 (設定の追加) FileUsage = 1</pre> <pre>[root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行し対象ファイルを編集してください 【コマンド】 # vi /etc/odbcinst.ini (変更前)の内容に追記して (変更後)のようにする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

編集モー

No4 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
<p>4-4.ODBCドライバの設定ファイル変更箇所の確認 ODBCドライバの設定ファイルの変更箇所を確認する</p> <pre>[root@localhost tmp]# diff /etc/odbcinst.ini /etc/odbcinst.ini.bk 11,15c11,14 21,23c21,22 < Driver = /usr/lib64/libmaodbc.so < #Driver64 = /usr/lib64/libmyodbc8.so < Threading = 0 --- > Driver = /usr/lib/libmyodbc8.so > Driver64 = /usr/lib64/libmyodbc8.so 24,25c24 < Threading=0 < FileUsage=1 ---</pre> <p>[root@localhost tmp]#</p>	<p>以下のコマンドを実行してください</p> <p>【コマンド】 # diff /etc/odbcinst.ini /etc/odbcinst.ini.bk</p> <p>【確認】 修正箇所と変更内容が正しいか確認する</p> <pre>< Driver = /usr/lib64/libmaodbc.so < #Driver64 = /usr/lib64/libmyodbc8.so < Threading = 0 --- > Driver = /usr/lib/libmyodbc8.so > Driver64 = /usr/lib64/libmyodbc8.so 24,25c24 < Threading=0 < FileUsage=1</pre>	<p><input type="checkbox"/></p> <p> </p>
<p>No5 #コンソールイメージ</p> <p>4-5.ODBCドライバの設定ファイル変更の更新 4-5で変更した設定を更新する</p> <pre>[root@localhost tmp]# odbcinst -i -d -f /etc/odbcinst.ini odbcinst: Driver installed. Usage count increased to 2. Target directory is /etc odbcinst: Driver installed. Usage count increased to 2. Target directory is /etc odbcinst: Driver installed. Usage count increased to 2. Target directory is /etc odbcinst: Driver installed. Usage count increased to 2. Target directory is /etc odbcinst: Driver installed. Usage count increased to 2. Target directory is /etc</pre> <p>[root@localhost tmp]#</p>	<p>以下のコマンドを実行してください</p> <p>【コマンド】 # odbcinst -i -d -f /etc/odbcinst.ini</p>	<p><input type="checkbox"/></p>


資料名	シート名	バージョン	備考
ESET PROTECT on-prem for Linux V11.1 データベース移行手順書	5.DBの移行	1.0	
[移行後の環境(Rocky Linux9)]での実施手順			
No5 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
5-1.DBの作成 EP on-prem用のDBを作成する <pre>[root@localhost tmp]# mysql --host localhost -u root -p Enter password: Welcome to the MySQL monitor. Commands end with ; or \g. Your MySQL connection id is 14 Server version: 8.0.37 MySQL Community Server - GPL Copyright (c) 2000, 2024, Oracle and/or its affiliates. Oracle is a registered trademark of Oracle Corporation and/or its affiliates. Other names may be trademarks of their respective owners. Type 'help;' or '\h' for help. Type '\c' to clear the current input statement. mysql> CREATE DATABASE era_db CHARACTER SET utf8 COLLATE utf8_bin; Query OK, 1 row affected, 2 warnings (0.04 sec) mysql> show databases; +-----+ Database +-----+ era_db information_schema mysql performance_schema sys +-----+ 5 rows in set (0.03 sec) mysql> quit Bye</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # odbeinst -i -d -f /etc/odbeinst.ini Enter password: DBのログインパスワード 【コマンド】 CREATE DATABASE era_db CHARACTER SET utf8 COLLATE utf8_bin; 【コマンド】 show databases; 【確認】 DBにera_dbが作成されているか確認する 【コマンド】 quit	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
No2 #コンソールイメージ 5-2.ダンプファイルのインポート(DBの復元) 移行前の環境から移動させたダンプファイルをインポートする <pre>[root@localhost tmp]# mysql -u root -p era_db < /tmp/mysqldmp Enter password: [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # mysql -u root -p era_db < /tmp/mysqldmp Enter password: DBのログインパスワード 移行前の環境から移行させたダンプファイル(mysqldmp)は「/tmp」に配置している想定です。別の場所に配置している場合はコマンドは該当の場所に変更して実行ください。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
No3 #コンソールイメージ 5-3.データベースユーザーの作成 データベースのユーザーを作成する <pre>[root@localhost tmp]# mysql -u root -p "--execute=CREATE USER root@%' IDENTIFIED BY 'xxxxxxx';" Enter password: [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # mysql -u root -p "--execute=CREATE USER root@%' IDENTIFIED BY 'xxxxxxx';" IDENTIFIED BY 'xxxxxxx'; ="データベースの管理者パスワードを設定 Enter password: DBのログインパスワード	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
No3 #コンソールイメージ 5-4.データベースユーザーにアクセス権を付与 データベースのユーザーのアクセス権を付与する <pre>[root@localhost tmp]# mysql -u root -p "--execute=GRANT ALL ON TARGETDBNAME.* TO root;" Enter password: [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # mysql -u root -p "--execute=CREATE USER root@%' IDENTIFIED BY 'xxxxxxx';" IDENTIFIED BY 'xxxxxxx'; ="移行前のデータベースの管理者パスワードを設定ください Enter password: DBのログインパスワード	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>



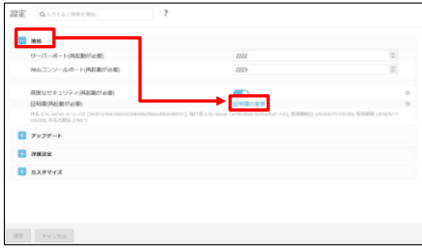
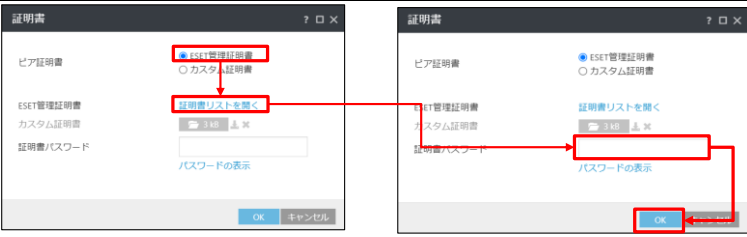

■ 商品名	■ シート名	バージョン	備考
ESET PROTECT on-prem for Linux V11.1 データベース移行手順書	6_EP on-premサーバのインストール	1.0	
[移行後の環境(Rocky Linux9)]での実施手順			
No1 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項		チェック
G-1. Firewallの停止・無効化 Firewallが無効化されていることを確認する <pre>[root@localhost tmp]# systemctl stop firewalld [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# systemctl disable firewalld Removed /etc/systemd/system/multi-user.target.wants/firewalld.service. Removed /etc/systemd/system/dbus-org.fedoraproject.FirewallD1.service. [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# systemctl status firewalld ● firewalld.service - firewalld - dynamic firewall daemon Loaded: loaded (/usr/lib/systemd/system/firewalld.service; disabled; vendor preset: enabled) Active: inactive (dead) Docs: man:firewalld(1) 以下、省略 [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # systemctl stop firewalld 【コマンド】 # systemctl disable firewalld 【コマンド】 # systemctl status firewalld 【確認】 Firewallが停止していること	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
No2 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項		チェック
G-2. OpenSSL のバージョン確認 OpenSSL のバージョンがサポートされているもの確認する。 <pre>[root@localhost tmp]# openssl version OpenSSL 3.X.X.X Nov2022 (Library:OpenSSL 3.X.X.1 Nov 2022) [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# yum install -y openssl /usr/lib64/libcrypto.so.3 /usr/lib64/libcrypto.so.3.0.7</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # openssl version 【確認】 サポートされているバージョンであるか確認する 詳細は以下をご参照ください。 https://help.eset.com/protect_install/11.1/ja-JP/prerequisites_server_linux.html 【コマンド】 # systemctl disable firewalld 【確認】 サポート対象のバージョンのものが含まれているか確認する 複数数のバージョンの OpenSSL を同時にインストールできるため、複数表示される場合あり	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・サポート対象外のバージョンの場合の場合は「yum install -y openssl」を実行ください</p> <p>・Linuxクライアントの互換性については「openssl_s_client -connect google.com:443 -tls1_2」を実行し、確認ください</p> </div>			
No3 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項		チェック
G-3. インストーラに実行権限を付与 インストーラに実行権限を付与する(/tmpフォルダにLinux版EP on-premのコンポーネントプログラムを配置しております) <pre>[root@localhost tmp]# unzip Component_Linux_x86_64.zip Archive: Component_Linux_x86_64.zip inflating: Agent-Linux-x86_64.sh inflating: era.war inflating: eset-bridge.x86_64.bin inflating: EDSensor-Linux-x86_64.sh inflating: Server-Linux-x86_64.sh [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# chmod +x Server-Linux-x86_64.sh [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt Server-Linux-x86_64.sh -rwxr-xr-x 1 root root 88911629 6月 19 16:21 Component_Linux_x86_64/Server-Linux-x86_64.sh [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # unzip Component_Linux_x86_64.zip 【コマンド】 # chmod +x Server-Linux-x86_64.sh 【コマンド】 # ls -alt Server-Linux-x86_64.sh 【確認】 パーミッションの確認をする。所有者に実行権限が付与されていること。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
No4 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項		チェック
G-4. EP on-premサーバのインストーラを実行 EP on-premサーバのインストーラを実行してインストールを開始する <pre>[root@localhost tmp]# ./Server-Linux-x86_64.sh --local=ja-JP --skip-license --db-driver=MySQL --db-hostname=127.0.0.1 --db-port=3306 --db-admin-username=root --db-admin-password=xxxxxxxx --server-root-password=xxxxxxxx --db-user-username=era_server_user --db-user-password=xxxxxxxx --cert-hostname= ESET PROTECT On-Prem Server Installer (version: 11.1.757.0), Copyright © 1992-2024 ESET, spol. s r.o. All rights reserved. ~~~~~ 中略 ~~~~~ Removed backup directory: /opt/eset/RemoteAdministrator/Server-936619589 Product installed. [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # ./Server-Linux-x86_64.sh --local=ja-JP --skip-license --db-driver=MySQL --db-hostname=127.0.0.1 --db-port=3306 --db-admin-username=root --db-admin-password=xxxxxxxx --server-root-password=xxxxxxxx --db-user-username=era_server_user --db-user-password=xxxxxxxx --cert-hostname= db-admin-password= <手順3-2>で設定した管理者アカウントのパスワード server-root-password= EP Webコンソールの管理者の初期パスワード db-user-password= EPが使用するデータベースのユーザーのパスワード ※<db-admin-password>、<server-root-password>、<db-user-password>に以下の文字を利用する場合、文字の直前にエスケープシーケンスを入力する必要があります。 <エスケープすれば使用できる文字> さま () # ; < > スペース (エスケープシーケンスは # を入力してください。) ※エスケープシーケンス…一語の文字では、システム上特殊な役割を持つものがあります。これらの文字が持つ役割を無効化するために、その文字の直前に記述する文字をエスケープシーケンスと呼びます。 また、<db-admin-password>、<server-root-password>、<db-user-password>に以下の文字を利用すると、EPのインストールに失敗するため、利用しないようご注意ください。 <使用できない文字> { } 【確認】 正常にインストールされたことを確認する。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>6-4 server-root-password 入力欄</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>6-4 db-user-password 入力欄</p> </div>			
No5 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項		チェック
G-5. EP on-premサーバの起動確認 EP on-premサーバインストール完了後、正常に起動しているか確認する <pre>[root@localhost tmp]# systemctl status eraserver ● eraserver.service - ESET PROTECT Server Loaded: loaded (/etc/systemd/system/eraserver.service; enabled; preset: disabled) Active: active (running) since Tue 2024-06-18 22:04:15 JST; 50s ago Process: 6749 ExecStart=/opt/eset/RemoteAdministrator/Server/ERAServer --daemon --pidfile /var/run/eraserver Main PID: 6753 (ERAServer) Tasks: 50 (limit: 10900) Memory: 219.3M CPU: 15.464s CGroup: /system.slice/eraserver.service └─m06751 /opt/eset/RemoteAdministrator/Server/ERAServer --daemon --pidfile /var/run/eraserver.pid 6月 18 22:04:15 localhost.localdomain systemd[1]: Starting ESET PROTECT Server... ~~~~~ 以下、省略 ~~~~~ [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # systemctl status eraserver 【確認】 EPサービスが稼働しているか確認する。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	


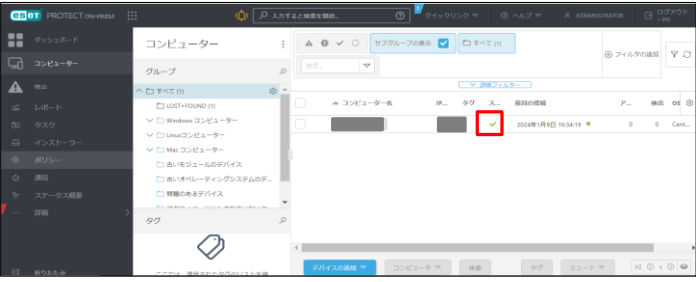
資料名	シート名	バージョン	備考
ESET PROTECT on-prem for Linux V11.1 データベース移行手順書	7.Tomcatのインストール	1.0	
移行後の環境(Rocky Linux9)での実施手順			
No1 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
7-1. Java17のインストール Java実行環境をインストールする <pre>[root@localhost tmp]# yum localinstall -y https://corretto.aws/downloads/latest/amazon-corretto-17-x64-linux-jdk.rpm</pre> 途中省略 <pre>インストール中 : java-17-amazon-corretto-devel-1:17.0.11.9-1.x86_64 1/1</pre> scriptletの実行中: java-17-amazon-corretto-devel-1:17.0.11.9-1.x86_64 1/1 <pre>検証中 : java-17-amazon-corretto-devel-1:17.0.11.9-1.x86_64 1/1</pre> インストール済み: <pre>java-17-amazon-corretto-devel-1:17.0.11.9-1.x86_64</pre> 完了しました! <pre>[root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # yum localinstall -y https://corretto.aws/downloads/latest/amazon-corretto-17-x64-linux-jdk.rpm ※手順ではAmazon Correttoを利用します。 【確認】 インストールされたことを確認する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
No2 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
7-2. Tomcatのインストール 任意のディレクトリに事前に用意したTomcatを解凍する <pre>[root@localhost tmp]# tar zxvf apache-tomcat-X.X.XX.tar.gz</pre> 途中省略 <pre>apache-tomcat-X.X.XX/bin/setclasspath.sh apache-tomcat-X.X.XX/bin/shutdown.sh apache-tomcat-X.X.XX/bin/startup.sh apache-tomcat-X.X.XX/bin/tool-wrapper.sh apache-tomcat-X.X.XX/bin/version.sh [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # tar zxvf apache-tomcat-X.X.XX.tar.gz ※手順以下のTomcatのバージョンについては、ご自身がダウンロードしたバージョンを入力してください。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
No3 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
7-3-1. Tomcatの設定(1) Tomcatのディレクトリを移動する <pre>[root@localhost tmp]# mv apache-tomcat-X.X.XX /var/lib/tomcat</pre> <pre>[root@localhost tmp]#</pre> <pre>[root@localhost tmp]# ls -alt /var/lib/tomcat</pre> 合計 144 <pre>drwxr-xr-x. 29 root root 4096 1月 9 14:22 .. drwxr-xr-x. 9 root root 220 1月 9 14:20 apache-tomcat-X.X.XX drwxr-xr-x. 2 root root 4096 1月 9 14:19 bin drwxr-xr-x. 2 root root 30 1月 9 14:19 temp drwxr-xr-x. 2 root root 4096 1月 9 14:19 lib drwxr-xr-x. 9 root root 220 1月 9 14:19 .</pre> 以下省略 <pre>[root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # mv apache-tomcat-X.X.XX /var/lib/tomcat 【コマンド】 # ls -alt /var/lib/tomcat 【確認】 Tomcat9のディレクトリが/var/lib/tomcatに移動されていること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
No3 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック	
7-3-2. Tomcatの設定(2) Tomcatのサービスファイルを作成する <pre>[root@localhost tmp]# vi /etc/systemd/system/tomcat.service</pre> 以下の内容を記入する <pre>[Unit] Description=Apache Tomcat 9 After=network.target [Service] User=tomcat Group=tomcat Type=oneshot PIDFile=/var/lib/tomcat/tomcat.pid RemainAfterExit=yes ExecStart=/var/lib/tomcat/bin/startup.sh ExecStop=/var/lib/tomcat/bin/shutdown.sh [Install] WantedBy=multi-user.target [root@localhost tmp]#</pre> <pre>[root@localhost tmp]# cat /etc/systemd/system/tomcat.service</pre> <pre>[Unit] Description=Apache Tomcat 9 After=network.target [Service] User=tomcat Group=tomcat Type=oneshot PIDFile=/var/lib/tomcat/tomcat.pid RemainAfterExit=yes ExecStart=/var/lib/tomcat/bin/startup.sh ExecStop=/var/lib/tomcat/bin/shutdown.sh [Install] WantedBy=multi-user.target [root@localhost tmp]#</pre>	以下のコマンドを実行してください 【コマンド】 # vi /etc/systemd/system/tomcat.service 【コマンド】 # cat /etc/systemd/system/tomcat.service 【確認】 左記の内容のファイルが作成されていること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>


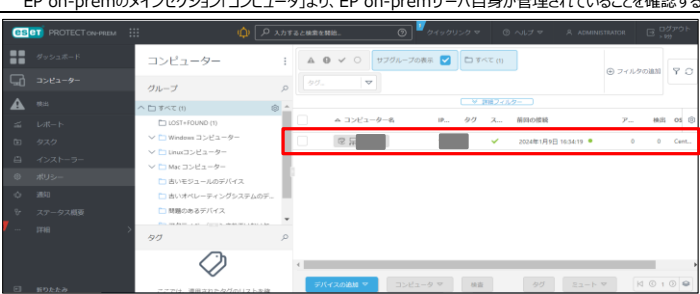
No	#コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
No3	#コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
7-3-3.	Tomcatの設定(3) Tomcatのサービスファイルに実行権限を付与する	以下のコマンドを実行してください	
	<pre>[root@localhost tmp]# chmod 755 /etc/systemd/system/tomcat.service [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt /etc/systemd/system/tomcat.service -rwxr-xr-x 1 root root 356 6月 19 16:15 /etc/systemd/system/tomcat.service [root@localhost tmp]#</pre>	<p>【コマンド】 # chmod 755 /etc/systemd/system/tomcat.service</p> <p>【コマンド】 # ls -alt /etc/systemd/system/tomcat.service</p> <p>【確認】 作成したファイルに実行権限が付与されていること</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
No3	#コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
7-3-4.	Tomcatの設定(4) tomcatユーザを作成し、関連ファイルのオーナーをtomcatユーザに変更する	以下のコマンドを実行してください	
	<pre>[root@localhost tmp]# useradd -s /sbin/nologin tomcat [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# chown -R tomcat:tomcat /var/lib/tomcat/ [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt /var/lib/tomcat/ ~~~~~途中省略~~~~~ drwxr-x--- 2 tomcat tomcat 6 6月 19 16:18 logs drwxr-x--- 7 tomcat tomcat 81 6月 19 16:18 webapps drwxr-x--- 2 tomcat tomcat 6 6月 19 16:18 work [root@localhost tmp]#</pre>	<p>【コマンド】 # useradd -s /sbin/nologin tomcat</p> <p>【コマンド】 # chown -R tomcat:tomcat /var/lib/tomcat/</p> <p>【コマンド】 # ls -alt /var/lib/tomcat/</p> <p>【確認】 Tomcatの関連ファイルの所有者がTomcatユーザになっていること</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
No4	#コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
7-4.	webコンソールパッケージの設置 任意のディレクトリに事前に用意したファイルを所定の場所に配置する	以下のコマンドを実行してください	
	<pre>[root@localhost tmp]# cp era.war /var/lib/tomcat/webapps/ [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt /var/lib/tomcat/webapps/ grep era.war -rw-r--r-- 1 root root 166310575 6月 19 16:18 era.war [root@localhost tmp]#</pre>	<p>【コマンド】 # cp era.war /var/lib/tomcat/webapps/</p> <p>【コマンド】 # ls -alt /var/lib/tomcat/webapps/ grep era.war</p> <p>【確認】 所定の場所にera.warが配置されたこと</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
No5	#コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
7-5.	WEBコンソールをSSL通信で使用するための鍵の生成（実際は1行で続けて実行） 鍵の生成し、所定の場所に配置する	以下のコマンドを実行してください	
	<pre>[root@localhost tmp]# keytool -genkeypair -keyalg RSA -keysize 4096 -dname "CN=Unknown, OU=Unknown, O=Unknown, L=Unknown, ST=Unknown, C=Unknown" -alias tomcat -keystore .keystore -storepass xxxxxx -validity 3650 [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# mv .keystore /var/lib/tomcat/conf/.keystore [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt /var/lib/tomcat/conf/ grep .keystore -rw-r--r-- 1 root root 3913 6月 19 16:18 .keystore [root@localhost tmp]#</pre>	<p>【コマンド】 # keytool -genkeypair -keyalg RSA -keysize 4096 -dname "CN=Unknown, OU=Unknown, O=Unknown, L=Unknown, ST=Unknown, C=Unknown" -alias tomcat -keystore .keystore -storepass xxxxxx -validity 3650</p> <p>※ -dname 内のユーザー情報は環境に合わせて設定してください。</p> <p>※ -keystore と -storepass の値は同一のものを任意に設定してください。後述の手順で利用します。</p> <p>【コマンド】 # mv .keystore /var/lib/tomcat/conf/.keystore</p> <p>【コマンド】 # ls -alt /var/lib/tomcat/conf/ grep .keystore</p> <p>【確認】 所定の場所に.keystoreが配置されたこと</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">7-5 keypass 兼 storepass メモ欄</div>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
No6	#コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
7-6.	Tomcat設定ファイルのバックアップ Tomcatの設定ファイルのバックアップを取得する	以下のコマンドを実行してください	
	<pre>[root@localhost tmp]# cp -p /var/lib/tomcat/conf/server.xml /var/lib/tomcat/conf/server.xml.bk [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt /var/lib/tomcat/conf/ grep server.xml -rw----- 1 tomcat tomcat 7580 6月 19 16:18 server.xml -rw----- 1 tomcat tomcat 7580 6月 19 16:18 server.xml.bk [root@localhost tmp]#</pre>	<p>【コマンド】 # cp -p /var/lib/tomcat/conf/server.xml /var/lib/tomcat/conf/server.xml.bk</p> <p>【コマンド】 # ls -alt /var/lib/tomcat/conf/ grep server.xml</p> <p>【確認】 バックアップファイルが作成されていること</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

No7 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
<p>7-7. TomcatのSSLの設定 SSL設定を有効にするため、設定ファイルを修正する</p> <pre>[root@localhost tmp]# vi /var/lib/tomcat/conf/server.xml (変更前) <!-- Define an SSL /TLS HTTP/1.1 Connector on port 8443 . . . --> <!-- <Connector port="8443" protocol="org.apache.coyote.http11.Http11NioProtocol" maxThreads="150" SSLEnabled="true" maxParameterCount="1000" > <SSLHostConfig> <Certificate certificateKeystoreFile="conf/localhost-rsa.jks" type="RSA" /> </SSLHostConfig> </Connector> --> (変更後) <!-- Define an SSL /TLS HTTP/1.1 Connector on port 8443 . . . --> <Connector port="8443" protocol="org.apache.coyote.http11.Http11NioProtocol" maxThreads="150" SSLEnabled="true" maxParameterCount="1000" > <SSLHostConfig> <Certificate certificateKeystoreFile="/var/lib/tomcat/conf/.keystore" certificateKeystorePassword="キーストアのパスワード" type="RSA" /> </SSLHostConfig> </Connector></pre>	<p>以下のコマンドを実行してください</p> <p>【コマンド】 # vi /var/lib/tomcat/conf/server.xml</p> <p>【確認】 以下の2項目が追加され、コメントアウト (<!-- -->)を削除していること ①certificateKeystoreFile="【.keystoreを格納したディレクトリパス】" ②certificateKeystorePassword="【6-5で設定したキーストアのパスワード】" ※似たような箇所が多いので間違った所に記載しないよう注意</p>	<p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>
<p>No8 #コンソールイメージ 7-8. Tomcatの起動 Tomcatが正常に起動するか確認する</p> <pre>[root@localhost tmp]# systemctl start tomcat [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# systemctl status tomcat ● tomcat.service - Apache Tomcat 9 Loaded: loaded (/etc/systemd/system/tomcat.service; disabled; vendor preset: disabled) Active: active (exited) since 月 2024-06-19 17:36:37 JST; 5s ago Process: 54400 ExecStart=/var/lib/tomcat/bin/startup.sh (code=exited, status=0/SUCCESS) Main PID: 54400 (code=exited, status=0/SUCCESS) CGroup: /system.slice/tomcat.service mq54414 /usr/bin/java -Djava.util.logging.config.file=/var/lib/tom... ~~~~~以下省略~~~~~ [root@localhost tmp]#</pre>	<p>以下のコマンドを実行してください</p> <p>【コマンド】 # systemctl start tomcat</p> <p>【コマンド】 # systemctl status tomcat</p> <p>【確認】 Tomcatが稼働しているか確認する。</p>	<p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>
<p>No9 #コンソールイメージ 7-9-1.Webコンソール接続の確認(1) WebブラウザよりEP on-premにアクセスする(本手順で利用しているブラウザはChromeです) https://[サーバのIPアドレス]:8443/era/webconsole</p> 	<p>https://[サーバのIPアドレス]:8443/era/webconsole</p> <p>※以下、Chromeで説明します。</p> <p>左記画面が表示されたら「詳細設定」ボタンを押下する</p>	<p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>
<p>No9 #コンソールイメージ 7-9-2.Webコンソール接続の確認(2) WebブラウザよりEP on-premにアクセスする</p> 	<p>「IPアドレス」にアクセスする(安全ではありません) ボタンを押下する</p>	<p><input type="checkbox"/></p>

No9 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
<p>7-9-3.Webコンソール接続の確認(3) WebブラウザよりEP on-premにアクセスする</p> 	<p>【確認】 ESET PROTECT on-premのTOP画面が表示されること ※ESET PROTECT on-premのログイン画面が表示されたら管理者ユーザでログイン ・ユーザ名: Administrator ・パスワード: 6-4で設定したserver-root-passwordの値、言語は「日本語」を選択します。</p>	<input type="checkbox"/>
<p>No10 #コンソールイメージ</p> <p>7-10. Tomcatの自動起動の設定 Tomcatは初期設定ではサーバ起動時に自動起動する設定になっていないため、自動起動するように設定する</p> <pre>[root@localhost tmp]# systemctl enable tomcat Created symlink from /etc/systemd/system/multi-user.target.wants/tomcat.service to /etc/systemd/system/tomcat.service. [root@localhost tmp]# systemctl status tomcat ● tomcat.service - Apache Tomcat 9 Loaded: loaded (/etc/systemd/system/tomcat.service; enabled; vendor preset: disabled) Active: active (exited) since 月 2022-01-31 18:16:54 JST; 3min 1s ago Main PID: 53926 (code=exited, status=0/SUCCESS) CGroup: /system.slice/tomcat.service mq53940 /usr/bin/java - ~~~~~以下省略~~~~~ [root@localhost tmp]#</pre>	<p>以下のコマンドを実行してください</p> <p>【コマンド】 # systemctl enable tomcat</p> <p>【コマンド】 # systemctl status tomcat</p> <p>【確認】 自動起動のための設定が反映されていること</p>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

資料名	シート名	バージョン	備考
ESET PROTECT on-prem for Linux V11.1 データベース移行手順書	8.証明書の変更	1.0	
Webブラウザの利用かつ移行後の環境へ接続可能な環境で手順を実施ください			
No1. #コンソールイメージ		コマンド/確認事項	チェック
8-1. EP on-premにログインする WebブラウザよりEP on-premにアクセスする		【確認】EP on-premのTOP画面が表示されること ※EP on-premのログイン画面が表示されたら管理者ユーザでログイン ・ユーザ名：Administrator ・パスワード：6-4で設定した—server-root-passwordの値、言語は「日本語」を選択します。	<input type="checkbox"/>
			
No2. #コンソールイメージ		コマンド/確認事項	チェック
8-2. 証明書情報を変更する(1) セキュリティ管理ツールの証明書を移行前の環境の証明書に変更します		Webコンソールの[詳細]-[設定]より、設定画面を表示してください。	<input type="checkbox"/>
		Webコンソールの[詳細]-[設定]より、設定画面を表示してください。	<input type="checkbox"/>
		[接続]-[証明書の変更]をクリックしてください。	<input type="checkbox"/>
		[カスタム証明書]-[ESET管理証明書]-[証明書リスト]をクリックし、移行前のサーバー証明書に設定します。 証明書パスワードを設定している場合は[証明書パスワード]を設定ください。 ※証明書パスワードを設定していない場合は実施は不要です。 証明書設定が終了したら、[OK]をクリックしてください。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
		[保存]をクリックしてください。 [緑のチェック]が表示され、設定が反映されたことを確認します。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

No3 #コンソールイメージ	コマンド/確認事項	チェック
<p>8-3.EP on-premサーバの再起動 証明書変更後、EP on-premサーバの再起動を行う</p> <pre>[root@localhost tmp]# systemctl restart eraserver</pre> <p>[root@localhost tmp]# systemctl status eraserver</p> <pre>● eraserver.service - ESET PROTECT Server Loaded: loaded (/etc/systemd/system/eraserver.service; enabled; preset: disabled) Active: active (running) since Tue 2024-06-18 22:04:15 JST; 50s ago Process: 6749 ExecStart=/opt/ eset/RemoteAdministrator/Server/ERAServer --daemon --pidfile /var/run/eraser> Main PID: 6751 (ERAServer) Tasks: 50 (limit: 10900) Memory: 219.3M CPU: 15.464s CGroup: /system.slice/eraserver.service mq6751 /opt/ eset/RemoteAdministrator/Server/ERAServer --daemon --pidfile /var/run/eraserver.pid 6月 18 22:04:15 localhost.localdomain systemd[1]: Starting ESET PROTECT Server...</pre> <p>~~~~~ 以下 省略 ~~~~~</p>	<p>以下のコマンドを実行してください</p> <p>【コマンド】 # systemctl restart eraserver</p> <p>【コマンド】 # systemctl status eraserver</p> <p>【確認】 サービスが稼働しているか確認する。</p>	<p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p> <p><input type="checkbox"/></p>
<p>No4 #コンソールイメージ 8-4-1. 接続されていることの確認 (1) WebブラウザよりEP on-premにアクセスする</p> 	<p>【確認】 EP on-premのTOP画面が表示されること ※EP on-premのログイン画面が表示されたら管理者ユーザでログイン ・ユーザ名：Administrator ・パスワード：6-4で設定した—server-root-passwordの値、言語は「日本語」を選択します。</p>	<p><input type="checkbox"/></p>
<p>No4 #コンソールイメージ 8-4-2. 接続されていることの確認 (2) EP on-premのメインセクション「コンピュータ」より、移行前に管理していた端末が接続してきているか確認する</p> 	<p>【コマンド】 EP on-premの画面左側のメインセクションより、「コンピュータ」を選択します。 移行前に管理している端末が表示され、ステータスが[]になっていることを確認する。</p>	<p><input type="checkbox"/></p>

資料名	シート名	バージョン	備考
ESET PROTECT on-prem for Linux V11.1 データベース移行手順書 「移行後の環境(Rocky Linux9)」での実施手順	9. EMIエージェントのインストール	1.0	
No1 #コンソールイメージ 9-1. インストーラに実行権限を付与 インストーラに実行権限を付与する(/tmpフォルダにLinux版EP on-premのコンポーネントプログラムを配置しております) [root@localhost tmp]# chmod +x Agent-Linux-x86_64.sh [root@localhost tmp]# [root@localhost tmp]# ls -alt Agent-Linux-x86_64.sh -rwxr-xr-x 1 root root 48615366 6月 19 17:13 Agent-Linux-x86_64.sh [root@localhost tmp]#	コマンド/確認事項 以下のコマンドを実行してください 【コマンド】# chmod +x Agent-Linux-x86_64.sh 【コマンド】# ls -alt Agent-Linux-x86_64.sh 【確認】パーミッションの確認をする。所有者に実行権限が付与されていること。	チェック <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
No2 #コンソールイメージ 9-2. EMIエージェントのインストーラを実行 EMIエージェントのインストーラを実行しインストールを開始する(サーバー支援インストールを行います) [root@localhost tmp]# ./Agent-Linux-x86_64.sh --skip-license --hostname=127.0.0.1 --port=2222 --webconsole-port=2223 --webconsole-user=Administrator --webconsole-password= [6-4で設定した--server-root-passwordの値] Initialized log file: /var/log/ eset/RemoteAdministrator/EraAgentInstaller.log ESET Management Agent Installer (version: 11.2.2076.0), Copyright c 1992-2024 ESET, spol. s r.o. - All rights reserved. ~~~~~ 途中省略 ~~~~~ Do you accept server certificate? [y/N]: y ~~~~~ 途中省略 ~~~~~ Service started. Product installed. [root@localhost tmp]#	コマンド/確認事項 以下のコマンドを実行してください 【コマンド】# ./Agent-Linux-x86_64.sh --skip-license --hostname=127.0.0.1 --port=2222 --webconsole-port=2223 --webconsole-user=Administrator --webconsole-password= [6-4で設定した--server-root-passwordの値] 【確認】EMIエージェントのインストールが完了していること。	チェック <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	
No3 #コンソールイメージ 9-3-1. 管理されていることの確認 (1) WebブラウザよりEP on-premにアクセスする		コマンド/確認事項 以下のコマンドを実行してください 【確認】EP on-premのTOP画面が表示されること ※EP on-premのログイン画面が表示されたら管理者ユーザでログイン ・ユーザ名: Administrator ・パスワード: 6-4で設定した--server-root-passwordの値、言語は「日本語」を選択します。	チェック <input type="checkbox"/>
No4 #コンソールイメージ 9-3-2. 管理されていることの確認 (2) EP on-premのメインセクション「コンピュータ」より、EP on-premサーバ自身が管理されていることを確認する		コマンド/確認事項 以下のコマンドを実行してください 【コマンド】EP on-premの画面左側のメインセクションより、「コンピュータ」を選択し、EP on-premサーバ自身が管理されていることを確認します。 ※EP on-premサーバが2台表示されている場合、最終接続が古い方の端末を削除してください。(移行前のEP on-premサーバの情報となります)	チェック <input type="checkbox"/>
以上で、手順は終了となります。			